

# わたしのくらし 地域の歴史⑱ 牛浜地藏尊の長い旅

―熊川と福生はかつて、五日市街道を挟みふたつの村として成立していました。そんなふたつの村のちよつと間に、福生村と熊川村に二分されるかたちで存在する「牛浜」。ここに今も存在する牛浜地藏尊が辿った長い旅路のお話を「白梅歴史懇話会」にて、清水信作さんに語っていただきました。―

## 「地藏坂」

一七一六年に、牛浜地域に疫病が蔓延しました。人々がその苦しみから逃れるため、清蔵院より地藏様を借りて、現在の福生市民会館前に仮小屋を造り祀ったといわれています。毎年9月24日を地藏様の縁日と定め、お祭をしてみました。(現在は23日です) お祭当日には和尚さんが来て、地藏様に疫病退散・五

穀豊穡の祈願がされ、地芝居などが奉納されました。

こういった経緯で、今はもうそう呼ぶ人はあまりいませんが、市民会館前の坂を「地藏坂」といいます。

福生村の牛浜と熊川村の牛浜は、五日市街道を挟んで向かい合った二ツバ組織(村内区画のひとつ。年中行事や通過儀礼などをともに行う)でした。災害時には助け合う取り決めがあるほか、葬式の際には福生の牛浜と熊川の牛浜両方から人を出し、「穴番」と呼ばれる組織として執り行いました。棺を担ぐ人や墓穴を掘る人のほかに、棺が運ばれて来るまで見張りをする役割もあり、福生と熊川、両方の牛浜でもそれぞれ役割を担ってきま

した。

牛浜にも南稻荷のような膳椀倉があり、結婚式などに使う座布団や大きな皿、お碗などが仕舞われていました。それは残念ながら、戦後不要になった際になくなってしまっています。

このようことから牛浜の二ツ

バ組織はとても結束が固かったことが窺えます。牛浜はもともとひとつの村のようなもので、五日市街道を挟んで福生村と熊川村ができたために分割されたのではないかと思っています。

## 「地藏屋敷と鎮守様」

この地藏様について、一八四八年に牛浜39番地付近に住む林蔵さんという方から「地藏坂にある牛浜地藏尊を20年間貸してほしい」と福生・熊川の両牛浜に申し出がありました。

この林蔵さんは地藏坂の地藏様のあった場所の土地を畑として耕作したいために地藏様を自分の屋敷に移すように申し出ました。

林蔵さんが地藏様を借りるためのお金は、地藏坂の土地に課せられた年貢を20年間支払うことのでき合意され、地藏様は五日市街道に面した林蔵さんの土地に移動することになりました。ここを「地藏屋敷」と呼んだそうです。

ちなみに地藏様がいなくなった

後は地藏坂の近くの丘に、農業の神様(恐らく大己貴命/オオナムチノミコト)でもある御岳山(みたけさん)が祀られました。この御岳山の武蔵御嶽神社御嶽講は、今も続いています。

現在の市民会館の前庭あたりに、当時畑の中に小高い塚がありました。これを「浅間塚」といい、富士山信仰を起源とする浅間信仰(富士山信仰の一形態)の神社の御祭神である木花咲耶姫命(コノハナサクヤヒメノミコト)を祀っていました。これを福生・熊川両牛浜の鎮守様(土地神)と決め、祭を行っていました。かつては牛浜の鎮守様は、この浅間社だったようです。

この浅間社のあった畑は、清蔵院の土地であったため、今は清蔵院の本堂と幼稚園の間にある小高い森の中に、この浅間社があり、祀られています。清蔵院の守り神となっているのではないのでしょうか。

## 「地藏様の安住の地」

林蔵さんの土地に移動して以降の地藏様ですが、20年が経つと前述の約束の通り、その土地を離れることとなります。今度は現在の清水工業の前、今は駐車場となっている場所に移り、祀られました。

その次は銀座通りを出たところ



にありました田村まんじゅう屋さんへと移転します。地蔵様はその場所、70年程を過ごすごいになります。

しかし、地蔵様はまだ移動を余儀なくされます。その田村さんの家で物置を造ることになり、その場にいまだ地蔵様を移転せざるをえなくなつたのです。

それを役員に申し出たところ、干手院にお願いすることとなりました。干手院はこれを受け入れてくださり、ようやく地蔵様はここで、安住の地を得ることになったのです。

地蔵様は今でも「牛浜地蔵尊」として、干手院の牛浜共同墓地（福生市熊川一〇三五番地付近）に祀られています。

### 「牛浜橋人柱事件」

この地蔵様にまつわる事件を紹介します。

玉川上水の開削と同時に、「牛浜橋」という橋がかけられました。当時は江戸と甲府を結ぶ街道で、板橋でした。この板橋はすぐに腐るものですが、架け替えも修理もすべて村がもっていて、大変な負担となっていました。

牛浜橋がかかってから二二〇年もの間に五日市街道は物資の輸送のための馬車や牛車、人力車などの

往来も増え、破損もひどくなり、ついに明治10年に神奈川県に対し牛浜橋の改築を申請します。

当時の村長である石川彌八郎氏と村の役人は江戸城の三重橋と浅草橋、万世橋、永代橋を視察し、これらを作った熊本県の石工集団の親方・橋本大八氏を招き、牛浜橋の架け替えを依頼しました。石造りのめがね橋で、予算は五〇〇円であったそうです。これの内訳は三〇〇円を村方有志より無利子で借り、一〇〇円を村方の寄付、一〇〇円を近隣の村からの寄付で合計五〇〇円としたそうです。無利子の借金である三〇〇円は10年での返済予定で、方法は福生・熊川・牛浜の3つの渡船場の収入における利益部分三〇〇円ほどを、10年間返済にあてる形であったようです。

こうして工事が開始されましたが、完成後、改築の支払いは八六一円八五銭となってしまいました。無利子の借金は四二八円、寄付は二〇〇円、村方の寄付は一三四円になり、東京からの寄付も受け、牛浜橋の改築は大変な大工事となったのです。この大工事に、人柱事件が発生しました。

人柱は本来生きて人間が埋められてしまうものですが、その代わりとして、地蔵堂の地蔵様の当時3体

あつたうちの1体を埋めてしまったのです。

その話を聞いた近隣に住む高橋豊吉さんが罰当たりな行為に怒り、地蔵様を助け出します。橋の下へと下り、地蔵様を取り出し、なんと一〇〇キロほどもある石の地蔵様を、おんぶ紐でおぶって、もとの地蔵堂に戻したそうです。私はこの話を、父から聴きました

【語り部】清水信作さん

## ただいま会員募集中！

公民館白梅分館を使用しているサークルの会員募集中です。

### 《コール白梅》（合唱）

童謡、唱歌など、色々なジャンルの曲を歌い、市民音楽祭や白梅まつり、市民文化祭に参加しています。

午前中のひとときを一緒に大きな声で歌って楽しんでください。お待ちしております。

活動日 毎週火曜日

午前9時45分～正午

会費 月額 1,500円

連絡先 菅原 042-552-5883

### 《白梅俳句会》

一昨年に新しい先生を迎え、皆元気で俳句づくりを行っています。

新しく入会したい方がおられましたら、大歓迎です。

活動日 第3金曜日

午後1時30分～3時

会費 月額 1,000円

連絡先 和田 042-513-3345

### 《アトリエクレヨン》（子ども絵画・工作）

幼児・小学生とそのお母さんたちの絵画・工作サークルです。木工、絵画、手芸など毎回いろいろなテーマで楽しめます。3歳から小学校6年生まで、子どもたちそれぞれのペースで楽しむことを目的としています。

活動日 毎月2回 土曜日 午前10時～12時

会費 月額 2,000円

連絡先 大石 080-3006-2968

